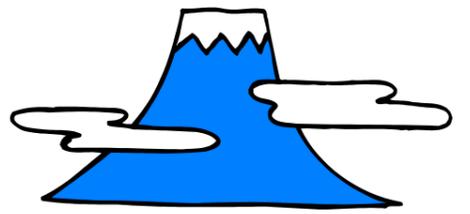


ほすほす つぷつぷ じゃんぷ

特訓進学塾

名教



2013年度版 第7号

2013年11月21日(木)
名古屋教育文化センター

塾長コラム

あんぱんち

〜第四十回〜

急に寒くなり、体調を崩してしまう子がいます。季節の変わり目、特に寒い季節に向かっていくこの時期は、十分に気を付けたいものです。

さて、先日、5年生の算数の授業中、こんな問題(図1)に取り組みました。

N君「これは、規則性の問題だね。簡単じゃん。…いや、先生、規則が見つからんわ。」

私「ヒントだそうか?」
N君「もうちょっと待って、もう少し考えさせて…」

私「先生、分かった!」
私「どれ?見せてごらん。どんな規則だった?」

図2は、N君の問題用紙です。N君のやったこと、お分かりいただけますか? 数列の先頭に、「5・10」を加えています。本来ならば、「5・10・5・1・1・5・10」の繰り返しに気づいて解く問題です。ところが、その規則が見つからなかったN君は、「5・10・5・10・5・1・1」という規則にしようと、「5・10」を加えたのです。数の並びに規則性が生まれるように問題を作り変えたのです。しかも、作り変えた後の問題なら、彼が出した答えは正解です。もちろん、作り変える前の問題ならば、不正解ですが…。この問題は、算数では、規則性という単元で、高校で学習する数列の基礎となる内容です。N君は、この内容を十分に理解できているからこそ、問題を作り変えられたともいえます。

N君の問題用紙を見て、私は、思わず、「賢いなあ。すげえーよ! こんなことをする子はめったにいない。」絶賛しました。そして、前の週に、私が読んでいた雑誌の記事を思い出し、その内容を要約して、N君に伝えました。皆様もぜひ読んでみてください。

その話を一緒に聞いていた中3のK君が、N君に向かって、「お前、フランス行けば、いいじゃん。」と声をかけます。N君が、嬉しそうに笑いながら、とても誇らしげにしていたのが印象的です。

日頃の学習の成果を、正解ではないけれど、違った力として見せてくれたN君、すばらしいです。また、こうやって後輩のいいところを認めて、声をかけてあげられるK君、君も最高です。

N君の解答は、日本の入試では、残念ながら不正解です。名教の模試でも残念ながら不正解。おそらく学校の授業でもNGでしょう。私がかつて勤めていた大手進学塾の授業でもNGです。なぜなら、入試で得点にならず、合格できないからです。しかし、N君の解答のように、子どもたちの可能性は、入試だけでは決して測れません。入試が変われば、日本の教育がもっと良くなると大きなことも考えてしまいます。入試を改革するほどの力にはありません。でも、現場の授業で、一人一人とちゃんと関わっていると、こういうシーンを見逃さず子どもの可能性を見つけれられると信じています。

最近、「自己肯定感を高めよう。」「自己重要感を育てよう。」「自尊心を高めよう。」「というところが、保護者向けの情報誌でも話題になります。人間は、他人から重要だと思われているという実感が強くなれば、それだけ自分の可能性を信じてことができます。そして、やる気があります。私たちは、これをセルフエスティームと呼んで、子どもたちのセルフエスティームが向上するように努め

下の図のように、1円、5円、10円の3種類の硬貨をある規則にしたがって左からならべていきます。

5 10 5 1 1 5 10 5 10 5 1 1 5 10 5 10 5 1 ……

このようにして30まいの硬貨をならべたとき、その合計は何円になりますか。

【図1】規則性の問題

下の図のように、1円、5円、10円の3種類の硬貨をある規則にしたがって左からならべていきます。

5 10 5 1 1 5 10 5 10 5 1 1 5 10 5 10 5 1 ……

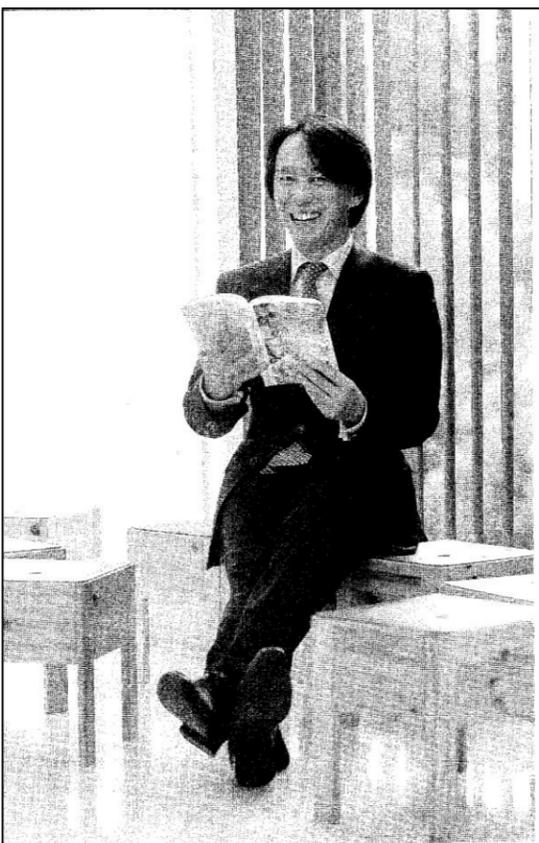
このようにして30まいの硬貨をならべたとき、その合計は何円になりますか。

【図2】N君の問題用紙

ようと心掛けています。私の信念でもあります。きっと、今回のシーンで、N君、K君のセルフエスティームが高まったのではないかなと思っています。

塾長 西川陽祐

でも、N君、今度の模試本番では、問題を作り変えずに正解を出してね(笑)。



『プレジデント』2013.12.2号

(プレジデント社、二〇一三年十一月一日発行、P.92-93)

福原 先生、こんにちは。この度は、お話を伺うことができて、ありがとうございます。N君の解答は、日本の入試では、残念ながら不正解です。名教の模試でも残念ながら不正解。おそらく学校の授業でもNGでしょう。私がかつて勤めていた大手進学塾の授業でもNGです。なぜなら、入試で得点にならず、合格できないからです。しかし、N君の解答のように、子どもたちの可能性は、入試だけでは決して測れません。入試が変われば、日本の教育がもっと良くなると大きなことも考えてしまいます。入試を改革するほどの力にはありません。でも、現場の授業で、一人一人とちゃんと関わっていると、こういうシーンを見逃さず子どもの可能性を見つけれられると信じています。

新しい日本のチカラ
Sotshiro Tahara presents
田原総一郎

福原正大

元銀行マン、エリート養成校をつくる

IGS代表
教育の必要性が叫ばれ、文科省も英語教育の早期化を推進。しかし、日本人が世界で活躍するためには、ほかにも足りないものがある。未来のグローバルリーダーを育てるIGSの福原正大代表は、「答えが1つしかない問題ばかり解かせる教育の問題」と指摘する。日本の教育が抱える課題の深層に、田原氏が切り込んだ!

Introduction
グローバル
教育の必要性が叫ばれ、文科省も英語教育の早期化を推進。しかし、日本人が世界で活躍するためには、ほかにも足りないものがある。未来のグローバルリーダーを育てるIGSの福原正大代表は、「答えが1つしかない問題ばかり解かせる教育の問題」と指摘する。日本の教育が抱える課題の深層に、田原氏が切り込んだ!

Masahiro Fukuhara
1970年、東京都生まれ。慶應義塾大学卒業。東京銀行(現三井住友銀行)パーパス・グローバル・インベスターズを経て、2010年、グローバルリーダーを育成するInstitution for a Global Society (IGS) 設立。著書に「ハーバード、オックスフォード…世界のトップスクールが実践する英米の学び方」。